

2014 早稲田大学 商学部 解答例

〔一〕

〔出典〕

鷲田清一『京都の平熱』問題文途中にいくつか省略がある。

〔解答〕

問一 a 伐採 b 悠久 c 来歴 問二 知らない街

問三 ハ 問四 A イ B ロ C ロ D ハ

問五 ニ(ハ↓イ↓ニ↓ロ) 問六 ロ 問七 存在の別の

問八 妖しい 問九 イ 問十 ニ

〔二〕

〔出典〕

(古文)新井白石『鬼神論』の一部 (漢文)『東坡志林』

〔解答〕

問一 ニ 問二 イ 問三 ホ 問四 ハ

問五 ロ 問六 ニ 問七 なきあと 問八 ハ

問九 (1) ニ (2) ロ (3) 忽聞_ニ空中有_レ声

〔講評〕

〔一〕が現代文の評論、〔二〕が古漢融合問題という形式は昨年度と同じ。〔二〕の漢文は、昨年度は漢詩の出題だったが、今年度は散文が出題された。

〔一〕は、比較的読みやすい文章であった。設問も形式はバラエティに富んでいるが、それほど解きにくい問題はなかった。

〔二〕のうち古文は、内容を問う問題が中心。具体的なエピソードと作者の主張の対応の読み取りがポイントとなる。漢文は、昨年度より古文との結び付きが強くなり、古文と漢文の対応関係の読み取りが、問九(1)で設問になっている。漢文の一文、一文は、それほど難しくはないが、内容に飛躍や省略があるため、その部分を古文の対応箇所を手がかりにして補うことができるかが、内容理解のポイントになる。設問自体はそれほど難しくないだろう。

2014年度 早稲田大学 商学部 英語解答例

I 設問1 (1)－(f) (2)－(c) (3)－(h) (4)－(j) (5)－(e)

設問2 (i)－(a) (v)－(c) (h)－(b) (二)－(c)

設問3 What I want to do is to put together travel and some activities.

II 設問1 (1)－(g) (2)－(a) (3)－(e) (4)－(d) (5)－(h)

設問2 (1)－(b) (2)－(d) (3)－(b)

設問3－(b)

設問4 彼は消費者の食料品購買の習慣を変えるために具体的な措置が導入されることを求めている。

設問5 消費者の行動を変えるための慎重な取り組み

III 設問1 (i)－(d) (v)－(a) (h)－(a) (二)－(d) (ホ)－(c)

設問2 (あ)－(c) (い)－(b)

設問3 1－(c) 2－(b) 3－(b)

設問4 Being

IV 設問1 the idea (下線部の one を書き換えるという趣旨であれば an idea)

設問2 (1)－(a) (2)－(d) (3)－(b) (4)－(b)

設問3 (A)－(b) (B)－(d) (C)－(a)

設問4 1－F 2－T 3－T 4－F 5－F

設問5 ペットを飼ってきた多くの人々は、動物という伴侶なしで生きていくことを想像するのが困難である。

V 設問1 (1)－(d) (2)－(d) (3)－(c) (4)－(b)

設問2 (i)－(b) (v)－(b) (h)－(d) (二)－(d) (ホ)－(a)

設問3 1－(b) 2－(c) 3－(d) 4－(d)

設問4－(a)

※コメント

会話問題が1題、長文問題が4題で、分量的にも例年通りの出題。難易度にもそれほどの変動は見られない。ただ、長文でもそうだが、特に会話問題では、新しい、生きた表現や言い回しが用いられているので、アップ・トゥ・デートな教材に触れておくことが必要になってきている。